

研究計画書

<p>研究者：村松 亜由美 所属部署：袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 4階病棟 共同研究者：二橋宏嘉¹⁾，渡邊真智子²⁾，岡田史郎³⁾，鈴木明日香³⁾，則次祐美³⁾，鳴川貴司⁴⁾，貝久保浩子⁵⁾ 共同研究者の所属部署：1) 袋井市立聖隷袋井市民病院 診療部 2) 袋井市立聖隷袋井市民病院 看護部 4階病棟 3) 袋井市立聖隷袋井市民病院 リハビリテーション室 4) 袋井市立聖隷袋井市民病院 薬剤室 5) 訪問看護ステーションあしたば</p>
<p>研究テーマ 転倒発生時間帯に着目し多職種連携や業務の見直しを行い、転倒発生を減少させた取り組み</p>
<p>研究の背景・意義（先行研究及び関連文献の検討を含めて記述する）</p> <p>平成 28 年度版厚生労働白書(2017)によると、わが国の人口のうち、65 歳以上の人口割合で示される高齢化率は 2015 年に 26.7%となり、今後も上昇を続けることが推計されている。近年注目されている高齢者の虚弱(フレイル)は、高齢者の低栄養状態や転倒を招き、徐々に要介護状態に陥ると考えられている。後期高齢期には骨折による入院受療率が増加する傾向があり、入院在院日数は高齢になるほど長い。後期高齢者の一人当たりの入院費は若い人の 6.8 倍と高い。そのため、高齢者の入院療養生活における転倒予防は、高齢者の ADL の低下を防ぐことだけでなく、適切な入院期間や医療費の増加を防ぐ観点からも重要である。</p> <p>中村(2008)は、転倒を繰り返す高齢者は、転倒によって得られた否定的経験から再転倒への不安を増幅させ、その結果自らの行動を再規制し縮小させるという消極的な行動へ変化させることを明らかにした。高齢者が安全に入院生活を送るための医療者の役割は大きい。</p> <p>病院内の転倒予防を目的としたワーキンググループの取り組みによりいくつかの施設では転倒件数が減少している(杉谷ら, 2018. 小林ら, 2017)。秋山(2017)は転倒転落後の現場検証を他職種で行うことにより、スタッフが患者の身になって要因を分析し患者の行動の根拠やつらさに気づき、その人に合わせた個別な対策を計画・実施するようになったと述べている。中野, 津田(2018)は複数回転倒した精神疾患患者に対し、転倒予防チームがラウンドし、要因分析や転倒予防対策を指導することで以降の再転倒を予防することを明らかにした。</p> <p>転倒発生時間帯に着目した先行研究をみると、宇野(2004)は、転倒発生時間帯が 3 峰性を呈することを明らかにしている。</p> <p>A 病棟では、2018 年に同一患者の転倒が複数回発生した。複数回転倒症例を分析したところ、多職種でのタイムリーな事例の共有や、患者の身体機能の認識が職種間で違う事が分かった。そこで、多職種で構成する転倒検証プロジェクトチーム(以下、転倒検証 PJ)を立ち上げ、同一患者の再転倒を予防する目的で 2019 年 1 月から活動を開始した。</p> <p>転倒検証 PJ の活動を通して、A 病棟の転倒発生数や、転倒発生時間帯に着目したところ、2019 年度 79 件の転倒が発生したことが分かった。転倒発生時間帯では、①6 時～8 時前後、②14 時台、③16 時～19 時台、④22 時台と 4 峰性の特徴があることが分かった。転倒の好発時間帯に着目し、業務を見直しや、多職種で情報を共有する仕組みを整えた。この取り組みについて報告する。</p>
<p>研究の目的 転倒好発時間帯前後の業務の見直しを行うことに加え、多職種で情報を共有することで転倒を予防する</p>

研究方法

1. 研究デザイン 実践報告

2. データ抽出期間

2019年4月1日から2021年3月31日

3. 研究期間

倫理審査承認後～2021年10月末日

4. 研究方法

転倒好発時間帯として挙げた①6時～8時前後、②14時台、③16時～19時台、④22時台の4峰性時間帯に着目し、8:50から行う夜勤看護師から日勤看護師への引継ぎで行うブリーフィングに理学療法士と作業療法士の代表者が参加した。加えて、16:40から行う日勤看護師から夜勤看護師への引継ぎの際、遅番看護助手が参加した。更に、歩行デバイスに介助方法を示すシグナルを他職種で共有できるように理学療法士、作業療法士、看護師が協働で検討し修正した。

昼食の際は、各療法士が昼食前後に介入し、食後の洗面や排泄といった生活に合わせたリハビリテーションを実施した。危険予知感度を高める働きかけとして、病棟で実施する危険予知トレーニングの方法を見直し、現象や環境から危険予知できる取り組みを行った。

データ抽出期間における転倒発生時間帯を明らかにし、取り組みによる効果や妥当性を検討する。

倫理的配慮

本研究は、袋井市立聖隷袋井市民病院倫理委員会の承認を得て実施する。収集したデータは、本研究以外で使用しない。研究で収集した全ての紙媒体及び電子データはデータ収集を行った順にID化し個人が特定できないよう匿名化を行う。データの抽出から分析の過程でインターネットに接続可能なパーソナルコンピュータ上には保存せず、パスワードロックをかけたUSBメモリに保存する。データは院外へは持ち出さない。保管は、院内の施錠可能な場所で研究終了後5年間厳重に保管し、その後、電子データは媒体から完全に削除し、紙媒体はシュレッダー処理により粉砕する。

共同研究者(渡邊)：【倫理研修】APRIN RCR/HSR 受講済（#AP0000158766 西暦2019年1月21日修了）

同意書の手続き

本研究は診療録を用いた調査研究であるため、研究対象者から文書あるいは口頭による同意取得は行わない。但し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指標で示されている「インフォームドコンセントを受けない場合において当該研究の実施について公開すべき事項」の公開と被験者または代諾者に研究参加拒否の機会を与えるため、オプトアウトについての資料を提示する。

結果の公表予定

本研究の研究結果は日本転倒予防学会第8回学術集会への発表及び学会誌の論文として報告を予定している。公表の際には、研究対象者の個人情報特定されないよう、匿名化する。

引用・参考文献

- ・厚生労働省 平成29年版厚生労働白書－社会保障と経済成長－図表1-2-7 年齢3区分別人口及び人口割合の推移と予測
<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/17/backdata/01-01-02-07.html> (2020.3.15)
- ・厚生労働省 高齢者医療の現状等について
https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000125580.pdf (2020.3.14)

- ・厚生労働省 健康づくり推進本部ワーキングチーム1『高齢者の介護予防等の推進』のこれまでの検討状況まとめ
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkoudukuri_sokusin/dl/kennkou02-04.pdf
(2020. 3. 14)
- ・中村陽子(2008). 転倒を繰り返す高齢者の再転倒後における転倒恐怖感を与える影響. 福井大学医学部研究雑誌 9(1, 2), 19-34.
- ・中野ますみ, 津田末子(2018). 精神疾患患者における転倒対策—転倒予防チーム活動—. 第 48 回(平成 29 年度) 日本看護学会論文集 精神看護(2018), 99-102.
- ・秋山ゆかり(2017). 転倒転落事例に対するウォーキングカンファレンスによる現場検証. 第 47 回(平成 28 年度) 日本看護学会論文集 看護管理(2017), 297-300.
- ・小林和克, 今釜史郎, 稲垣祐子ら(2017). 院内の転倒予防に向けて. *Geriatric Medicine*, 55, (9), 1003-1006.
- ・杉谷英太郎, 三宮克彦, 渡邊進(2018). 回復期ケアミックス病院における転倒予防ワーキンググループの取り組み. *MEDICAL REHABILITATION*, 221, 32-42.
- ・宇野親子(2004). 回復期リハビリテーション病棟における転倒の要因. 日本リハビリテーション看護学会学術大会収録, 108-110.

研究計画書の提出日 2021年6月10日

研究計画書の修正日 2021年7月13日